



東京部会(第106回)

日時: 2019年1月29日(火) 19:00-21:00

場所: 慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室

参加者: [順不同・敬称略] 篠原、杉田、杉浦、岸、塙、中沖、中村、加藤の8名

1. 部会報告ほか

○冬の経済教室in沖縄の報告(高校の先生中心に25名参加): 篠原先生

沖縄県の大学進学率30%のもとで「経済教育」とはという意味を問うために実施。日銀(金融広報中央委員会)との共催で実施。樋口雅夫先生(元教科調査官、現玉川大学教授)が新学習指導要領についての解説を行なう。奥田修一郎先生(大阪教育大学非常勤講師)は「社会保障と格差」をテーマに中学ではこんなことができるという提案を行なった。

○冬の経済教室in札幌の報告:(関係者をいれて27名参加): 篠原先生

鍋島史一氏(教育実践オフィスF代表)が『新テスト問題を視点に授業改善を考える』の報告を行なった。また、奥田修一郎先生はジグソー型のWSを組み入れた授業提案を行なった。新井明先生(上智大学非常勤講師)は、昨年北見北斗高校での公開授業の紹介とヘリマネのシミュレーションを行なった。

重要な情報であるがゆえに詰め込みすぎの感あり。時間延長あるいはトピックを減らすなど時間予定の工夫が必要だったかもしれない。なお、冬の経済教室の日程は、交通の関係など先生方が集まりやすい時期に変更してほしいという希望が札幌部会からでている。

2. 実践報告とその検討が行なわれた

○杉浦光紀先生(都立井草高校)から「行動経済学を踏まえた授業実践」の実践報告が行なわれ、以下のような検討が行なわれた。

—3月13日は30分(授業実践の紹介)しかないので、内容を取捨選択したほうが良いのではないかと。

—最後通牒ゲームはやったほうが良い。

—金子先生タイプの授業でどうか。

—著作権は大丈夫か？

—新井先生が現代社会と倫理の流れをくむ教科としてとらえる、という観点からは、杉浦さんの授業実践が公共で狙っているものと一致するのか？時間選好は行動経済学とは別で、純粋な経済理論。それを公共のなかで教えるという意味は？

—他者とのかわりを見なさいという意味で最後通牒ゲームを扱いなさいとされている。行動経済学と伝統的な経済学との混在。アダムスミスの位置づけに違和感。行動経済学≠思考実験。行動経済学をどのようにとらえているのか、と思われるのでは？

—行動経済学の範囲がわからない。

—杉浦先生が倫理の授業でやっているのもスミスは残したほうが良いのでは？スミスと最後通牒ゲームとのブリッジが難しい。時間選好は不要では？杉浦さんにはゲームをやってもらったほうが良い。

—最後通牒ゲームだけをとりあげて、従来の考え方であれば～だが、～は現実をうまく説明しているのでは？たとえば、マッチングという現象を説明してみてもどうか？これをやると何が説明できるのか？を言ったほうが良い(



- ミスは不要では。
 - 公共の扉の構成をふまえてやっている。
 - 全体の構成は触れてもよいが、そのうちの一部をやってみてはどうか。
 - 何のためにこのプレゼンをするのか、をみえるようにやるべき。人々が合理的行動をしないことから、実際の枠組みはこのようなものが望ましいというのを目指している。
 - 最後通牒ゲームをやって、保育園のペナルティをとりあげ、どんな制度がよいだろう、と考えさせるというのどうか。
- 杉浦実践は、「春の経済教室」で発表される予定で、さらに検討を加えることになった。
- 埴枝里子先生(都立府中東高校)から『身近な「問い」から社会の問題を「自分ごと」へ』の授業提案の報告があった。そのなかの、労働市場における椅子取りゲームに関して、以下のような検討が行なわれた。
- 「サイレントマジョリティ」の出典等、アイヒマンなどに関する質問。
 - 意図せずに部分均衡からその条件を変えていくという構成になっており、考えさせるのにはよい(加藤)。
 - 社会の現象は複雑であるにもかかわらず、現場では身近なところから教えようとしてしまう。むしろ、社会を見える化するという視点が重要ではないか。これをやれば何が見えるのか、ということ意識したほうが良い。
 - 雇用と労働問題についてはこれでよいが、職業選択では起業という側面が必要。
 - ゲームで教科書のどの部分を教えるのか、という意識が必要。それが教材のレベルを分ける。

3. その他報告

- 夏の経済教室の日程、場所は決定。
 - 本年2月の東京部会で原案を提示し、プログラムを議論。できれば、メッセージを考えたらどうか？ 去年は舞台裏をやらしてもらったが、伝わらなかったのではないか。また、東証から夏の金融の講師を探させてほしいという希望が寄せられている。
- 教師用マニュアルの構想
 - 新テストから文科省の方向性が見えるようになるためには、数年を要する。現在の教科書はそれとは別に、入試問題(=到達目標)を解けないのではないか。教科書を全面的に改訂するわけにはいかず、先生方にはマニュアルが必要だろう。それにもかかわらず、解決方法を提示していない。どうすればよいのか。
 - 何を学ばなければならないか、という焦点化が必要。そのためにはこんな発問したらどうか、というガイドはつくれるかもしれない。価格面から教科書にそれを組み込むのは難しく、別途購入をお願いすれば、生徒さんには渡らない。
- 今回の部会は少人数であったが、それぞれのテーマに関してじっくりと意見交換ができた。(記録、加藤)

次回の開催予定、2019年2月27日(水)19:00~21:00、会場は慶應義塾大学三田キャンパス内会議室を予定している。